

農作業コツのコツ

【第3号】
令和4年4月30日
福光農業改良協議会
砺波農林振興センター南砺班
福光農業協同組合 営農部

トラクターを運転する時はシートベルトを確実に着用しましょう。

育苗ハウスの換気を徹底し、がっちり苗に仕上げましょう。

収量・品質の高位安定化のためには目標穂数の確保が重要です。**適切な田植えと浅水管理**を徹底し、初期分けつを確保しましょう。

水稻・移植

1 育苗後半の管理 ～換気の徹底～

- ①硬化期のハウス内温度は、**昼間 25℃以下**、**夜間 10℃以上**を目安に管理を徹底しましょう。
- ②田植えの7日前頃からは夜間も換気し、硬い苗に仕上げましょう。
- ③かん水は早朝1回とし、かん水過多に注意しましょう(低温時は特に注意!)。
ただし、フェーン現象等で乾いた場合は日中もかん水しましょう。

かん水が多すぎると根の伸びが悪くなるとともに、カビが発生しやすくなります。

2 田植え ～適正な植付けの徹底～

(1) 代かき作業

除草効果を高めるため、

ア 代かきから田植えまでの日数は3～5日とし、長くならないようにしましょう。

イ 少なめの水で代かきを行い、稲ワラや雑草を鋤き込み、田面を均平に仕上げましょう。

(2) 基肥量

ア 倒伏が懸念されるほ場では、基準量から1割程度減らしましょう。

特に密苗栽培では、施肥基準量を厳守しましょう。

イ 前年、出穂前に色ざめしたほ場では、基準量を確実に施用しましょう。

※品種毎の基肥量は『営農とくらし』48～49 ページを参照してください。

事前に田植機の施肥ホッパやホース、排出口に詰まりがないか確認しましょう。

(3) 田植え作業

ア ブーンレパード箱粒剤の散布(播種時に施用していない場合)

・慣行苗の場合、箱当たり 50gを均一に散布(田植え当日まで)。

・密苗の場合、箱当たり 50～100gを均一に散布(1kg/10a、田植え当日まで)。

【注意】ハウス内で野菜等の作付けを予定している場合は、ハウス内での散布は禁止。

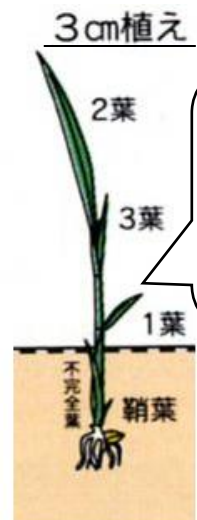
イ 田植え前には必ず田植機の調整(植付株数、本数、深さ)を行いましょ。

ウ 低温や強風の日には田植えを避けましょ。

10a 当たり施用量は1kg/10aを超えない。
例) 苗箱数 12 枚/10a
→ 施薬量 80g/箱

【田植え作業の目安】

	とみちから 五百万石	てんたかく 81 コシヒカリ	てんこもり
植付株数	80 株/坪	70 株/坪 (コシヒカリ: 中山間地域など初期茎数のとれにくいほ場は 80 株/坪)	60 株/坪
植付本数	3～4 本/株 (密苗は 5～6 本/株)		
植付深さ	3 cm 程度		



初期分けつの発生を良くするため、1葉が田面すぐ上に見える深さに植えましょ。

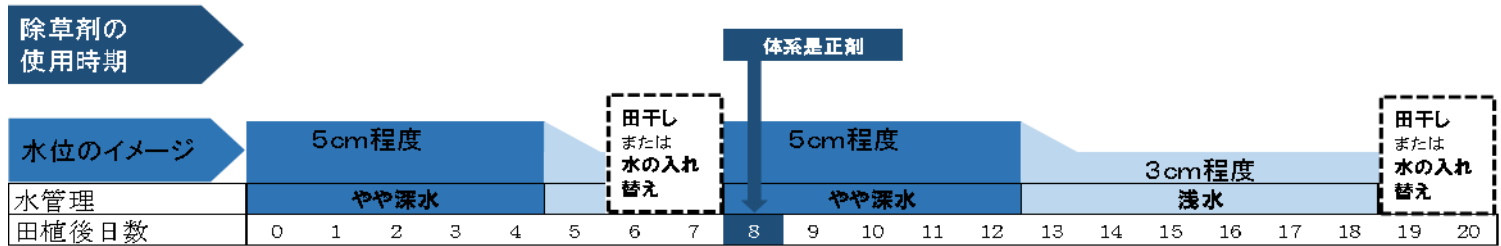
3 田植え後の水管理 ～浅水管理の徹底～

- ①田植え後は植え傷みを防ぐため、苗が水没しない程度の深水(5cm程度)としましょ。
- ②活着後は3cm程度の**浅水管理**で田水温を高め、初期分けつの発生を促しましょ。
- ③低温や強風が予想される場合は深水とし、天候回復後はすみやかに浅水管理にしましょ。

4 除草剤散布 ～適切な水管理で除草効果を安定させる～

- ①使用基準、使用上の注意を守り、遅れないように除草剤を散布しましょう。
また、農作物毎の生産履歴証明に必ず使用月日や量などを記帳しましょう。
- ②散布後5日間は**湛水状態**(水深5cm)を確実に保ち、田面を露出させないように水が足りなくなったらゆっくりと差し水をしましょう。
- ③成分が水田外へ流出しないよう散布後7日間はかけ流しや落水をしないようにしましょう。

(例) 田植え後に体系是正剤を処理する場合



※詳しくは『営農とくらし』の32～33、54～61ページを参照してください。

水稲・直播

1 カルパーコーティング ～播種時の土壌硬度に注意～

(1) 播種

確実に覆土(5～10mmの播種深度を確保)されていることや、種子や肥料の落下量を確認しながら播種しましょう。

【播種量の目安】

播種量(乾籾)	点播 3.0kg/10a
1m間苗立本数	12～25本

(2) 播種後の水管理

- ア 播種後5～7日程度は**田干し**を行い、芽に酸素を提供しましょう。
また、強風が吹くなど荒天の場合には、乾きすぎにも注意しましょう。
- イ 田干しが終了したら入水し、水持ちを安定させましょう。
- ウ 水持ちが安定したら、湛水状態で除草剤を散布しましょう。

※詳しくは『営農とくらし』の58～59、61、72～73ページを参照してください。



足を踏み入れ、2～3cm程度しか沈まなくなった頃が入水時期です。

2 鉄コーティング ～飽水管理の徹底で出芽を促進～

(1) 播種

代かき後自然落水し、土壌がある程度締まった状態で播種しましょう。

【播種量の目安】

播種量(乾籾)	3.0～3.5kg/10a
1m間苗立本数	12～25本

播種時の土壌の硬さは、種子が田面に張り付き、施肥溝が埋まらない程度



(2) 播種後の水管理

- ア 播種同時または播種直後に必ず除草剤を散布しましょう。
- イ 除草剤の効果を高めるため、播種後7日間程度は深水(水深5cm程度)による**湛水管理**を行いましょう。
- ウ 湛水管理後は水を落とし、田面が湿った状態を保つ**飽水管理**を行い、出芽を促進させましょう。

※詳しくは『営農とくらし』の58～59、61、74～75ページを参照してください。

大豆作付け予定ほ場では、額縁排水溝などの排水対策を徹底しましょう。